

肢体不自由児の体育指導における 指導目標・指導内容の設定に向けた取り組み

— 桐が丘 L 字型構造に基づく指導の具体化 —

○佐々木高一*1 松浦孝明*1 岡崎志乃*1 川間健之介*2 宇野彰*1,2

(筑波大学附属桐が丘特別支援学校*1) (筑波大学人間系*2)

KEY WORDS: 系統性 精選 重点化

I. 目的

体育では、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視しており、肢体不自由児にとってもその実現に向け、各運動を計画的に実践する中で、知識、技能、思考・判断、態度の各観点をバランスよく育てていく必要がある。肢体不自由児への体育指導の難しさとしては、まず運動を上手に行うことの困難さが挙げられる。これには運動機能の障害、遊びや運動経験の不足、ボディイメージ形成の遅れ、視覚的な情報処理の難しさ、動作の複合の難しさ等の要因が関連し合っている。又、各障害における配慮事項に留意し、健康・安全面を確保して運動を行うことも重要である。

当校では、こうした肢体不自由児の体育指導上の難しさに対して、用具・ルールや指導方法の工夫等、障害特性を踏まえた手だてを講じ、様々な技能レベルや身体状況の子どもたちが一緒に体育を行い、子ども同士が関わり合いながら運動に関する各観点を習得、向上させている。

さらに指導を充実させていく上では、1) 体育の目標及び内容の系統性を押さえた上で、肢体不自由児が豊かなスポーツライフを送るために身につけておくべき基礎的・基本的な事項を押さえること、2) 基礎的・基本的な事項をもとに習得状況の把握、残りの在学期間や障害特性等を見極め、一人ひとりに応じて指導目標・指導内容を設定し、何を指導するかを捉えること、3) 指導目標・指導内容の配列や重点の置き方等を工夫し、効果的な指導の在り方の3点を考えることが重要であり、本研究を通じて考察していきたい。

II. 方法

肢体不自由児の体育指導における基礎的・基本的な事項を押さえていくために、今年度は、小中高12年間の系統的な指導計画の作成に取り組んだ。その際、小中高の一般的な体育指導の流れ、肢体不自由児の障害や発達の特徴(感覚、知覚、認知等)、肢体不自由児の体力発達の特徴を考慮し、指導計画の作成におけるポイントを以下のように整理した(図1)。

1. 体を動かす楽しさを味わう
小学部段階で、様々な遊びや運動を通して体を動かすことを楽しみ、達成感や満足感を得ることができるよう運動を多く取り入れる。
2. さまざまな運動の経験から多様な動きの獲得を目指す
多様な動き・技能、体力の向上を図るとともに、運動機能の発達と感覚、知覚、認知の発達を関連づけて育てる
3. 個々の運動能力を高める運動と集団の運動のバランスを考慮する
走る、投げる、泳ぐなど基本的な運動能力を高める運動と、集団での動き・技能を高める運動(球技等)をバランスよく配置する。
4. 縦断的な指導による技能や知識の定着を目指す
複数年にわたる継続的な指導により、体力、技能の向上及び知識の定着を図る。
5. 競技スポーツと生涯スポーツへの発展
パラリンピックに代表される競技スポーツへの取り組み(オリンピック・パラリンピック教育を含む)と卒業後の豊かなスポーツライフを実現するための学びとする。
6. スポーツ文化の理解を図る
スポーツの文化的側面の理解を深めるとともに、「みる」、「支える」、「知る」活動に繋げる。

図1: 指導計画の作成におけるポイント

このポイントを踏まえ、12年間を通じて、どの時期にどのような運動を取り扱うのかを整理した。さらに、12年間を通じて、知識、技能、思考・判断、態度の各観点をどのように段階的に高めていくかを整理し(図2)、学部を超えても教員が共通理解を持って系統的な指導を行えるようにした。

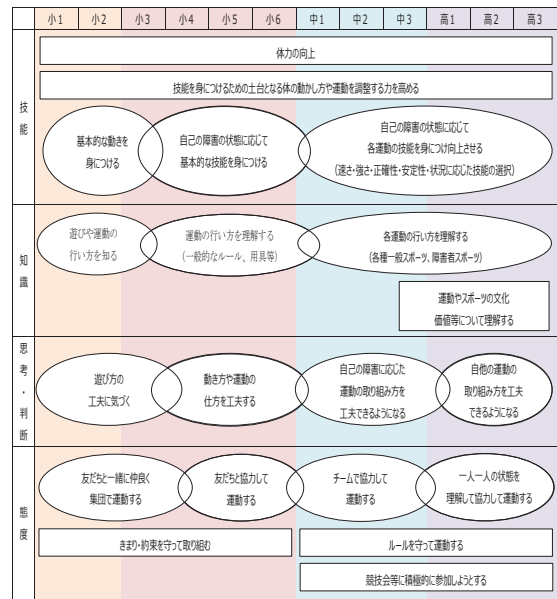


図2: 肢体不自由児の体育指導で育てたい力(12年間)

III. 授業実践

これらを活用した、高等部第2学年の授業をモデルに指導の在り方を検討した。すると、継続的な指導により、知識、技能が高まること、身につけた知識、技能をいかして、生徒達自身で思考・判断して運動の課題解決を進めていけるようになることを確認した。また、課題解決の達成感が運動の楽しさを感じることであり、更に仲間とともにより良く運動できるようになりたいという態度を身につけることにつながることも確認した。このことから、知識、技能、思考・判断、態度は相互に関連しており、各観点を関連付け、バランスよく育てる視点が指導において重要であることを確認した。そして、思考・判断、態度を育成する上では、基本となる知識、技能を高めることがベースになることを確認した。そのためには、障害特性に応じて体育指導上の手だてを行い、知識、技能の育ちを十分保障することが重要であることを確認した。

IV. 今後に向けて

肢体不自由児の体育指導における基礎的・基本的な事項について、まずは球技について技能、知識、思考・判断、態度の観点ごとに整理していきたい。そして、これらを活用し、一人ひとりに応じた体育指導の在り方について授業検討を行いたい。

(SASAKI Koichi MATSUURA Takaaki OKAZAKI Shino KAWAMA Kennosuke UNO Akira)